

エサキアメンボ *Limnoporus esakii* (Miyamoto)

【選定理由】

全国的に産地は少なく、県内でも産地は限られている。生息基盤が脆弱であり、水辺環境の悪化によって減少している。

【形態】

体長は8~10mm。体色は暗赤褐色~褐色で、体側に銀白色の毛による縦帯をもつ細身の種である。触角は第4節が最も長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市、豊橋市、田原市、安城市、春日井市、一宮市、東浦町、常滑市などで確認されており、沿岸部に分布の中心がある。

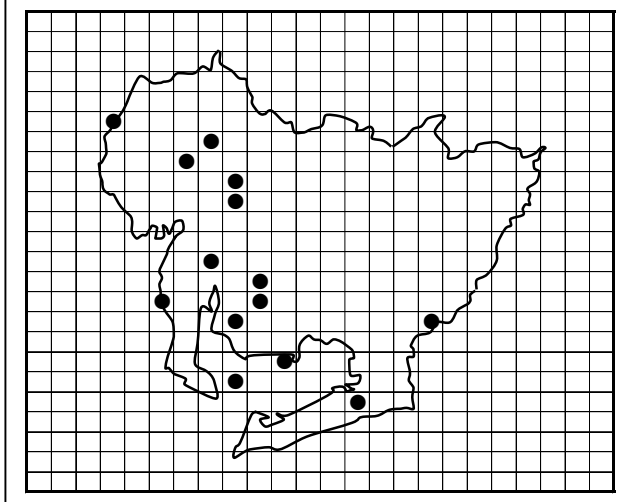
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、対馬。

【世界の分布】

中国、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平地から丘陵地にかけて、ヨシやガマなど抽水植物が繁茂するやや暗い溜め池やワンドなどに生息する。越冬は、ヨシなどの抽水植物の枯れ株やリターなどで行う事が知られる(中尾, 2019a)。春季や秋季を除くと通常開けた水面上には見られず、密集した抽水植物帯の中で生活するため、発見するのは容易でない。

【現在の生息状況／減少の要因】

主に西尾市内から新たな産地が確認された。渥美半島から知多半島にかけて沿岸部付近の溜め池や木曾川など大河川のワンドに生息している(矢崎・石田, 2008)。溜め池の埋め立てや宅地造成、河川の護岸改修等により生息地となるヨシ原が繁るような低湿地が減少したことが考えられる。

【保全上の留意点】

生息地の改修に当たっては、抽水植物群落の消失などに留意し、安易な護岸整備を避ける他に、水源の確保を考慮した周辺地域の保全を検討する必要がある。また、近年の研究では幼虫期間に長日条件下で発育した個体は、飛翔筋の発達が少ないことが知られ、夏季の落水は致命的とされる(中尾, 2019b)。このため、本種の生活史に考慮した生息地の保全が必須となる。

【引用文献】

- 矢崎充彦・石田和男, 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60 (234): 165-200.  
中尾史郎, 2019a. 第14章 絶滅危惧アメンボ類の保全. 絶滅危惧種の生態工学: 165-177. 地人書館, 東京.  
中尾史郎, 2019b. 陸水アメンボ類の保全生物学と生態工学. 昆虫と自然, 54 (7): 5-9.

【関連文献】

- 安城市史編集委員会, 2005. カメムシ目. 新編安城市史 11. 資料編自然 別冊 安城市動物目録: 91-99. 安城市.  
林 正美・宮本正一, 2018. 半翅目 Hemiptera. 日本産水生昆虫 科・属・種への検索(第二版): 329-427. 東海大学出版会, 神奈川.  
矢崎充彦, 2001. エサキアメンボ愛知県に産すー東海地方のアメンボ科分布資料一. 佳香蝶, 53 (207): 39-41.

(澤田宗一郎)